

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 開設記念シンポジウム
Tokyo University of the Arts Graduate School of Global Arts
Inauguration Symposium

芸術文化の創造と 大学の未来

Arts, Culture and the Future of the University

2016 年 4 月、東京藝術大学に、新しい独立研究科である大学院国際芸術創造研究科が設立されました。本研究科は、アートマネジメント、キュレーション、リサーチの三つの領域を柱に、グローバル化の時代の文化・芸術の創造と発信のための研究と教育を展開していきます。新研究科の開設を記念して、これからの芸術文化と大学の役割を考える国際シンポジウムを開催いたします。ぜひともご参加ください。

司会：	登壇者：
毛利嘉孝	吉見俊哉
奏楽・オルガン：	ジャスティン・ジェステイ
廣江理枝	ジャネット・ピライ
演奏企画：	カン・ミヨン
箕口一美	長谷川祐子
	熊倉純子

日時：
7月3日 (日)
16:00~18:30 15:30 開場

会場：
東京藝術大学 上野キャンパス 奏楽堂
〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

入場無料 予約不要
※同時通訳希望者のみメールで事前申込みを受け付けます。
同時通訳申込先：
ga-sympo@ml.geidai.ac.jp

GA
東京藝術大学大学院
国際芸術創造研究科
アートプロデュース専攻

主催：東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科
協力：カルチュラル・スタディーズ学会



プログラム

- 16:00 開会の辞 熊倉純子(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授・研究科長)
- 16:05 学長挨拶 澤和樹(東京藝術大学・学長)
- 16:15 来賓挨拶
- 16:25 奏楽 企画：箕口一美(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科講師)
演奏：廣江理枝(オルガニスト、東京藝術大学音楽学部准教授)
- 16:40 国際シンポジウム「芸術文化の創造と大学の未来」



ワシントン大学 助教授

ジャスティン・ジェスティ Justin Jesty

ワシントン大学アジア言語・文学部助教授。戦後日本の視覚芸術と社会運動の関係について研究し、映画、文学、戦後美術についての教鞭を執る。最新刊『エンゲージメントのアート：戦後直後の日本におけるソーシャリー・エンゲージド・アートと民主的文化』が近日刊行予定。昨秋、ワシントン大学で「日本におけるソーシャリー・エンゲージド・アート：同時代の政策と実践への問い」シンポジウムを主宰。近年の論文では、1940年代後半の美術におけるリアリズム論争、濱谷浩、土本典昭などを扱っている。



東京大学大学院教授

吉見俊哉 Shunya Yoshimi

東京大学新聞研究所助手、助教授、東京大学社会情報研究所教授を経て、組織統合で2004年より東京大学大学院情報学環教授となり現在に至る。人々の集まりの場におけるドラマの形成を考えるとところから出発し、近代化のなかでのポピュラー文化と日常生活、そこで作動する権力について考察してきた。主たる専攻は社会学、都市論、メディア論、文化研究だが、演劇論的なアプローチを基礎に、日本におけるカルチュラル・スタディーズの中心的な存在として先駆的な役割を果たしてきた。主な著書に、『都市のドラマトゥルギー』（弘文堂、1987年 河出文庫 2008年）、『メディア・スタディーズ』（せりか書房、編著、2000年）、『親米と反米』（岩波新書、2007年）、『大学とは何か』（岩波新書 2011年）、『視覚都市の地政学』（岩波書店、2016年）等多数。



インデペンデント・リサーチャー

ジャネット・ピライ Janet Pillai

2013年までマレーシアサインズ大学で教鞭をとる。2007年NPO法人Arts-EDを設立。ペナンにおいて若い人のための芸術、文化、教育のプログラムを行うほか、現在はインディペンデント・リサーチャーとして、文化プログラムの継続性や、エコシステムについての研究を行う。専門は地域社会のための芸術プログラム、文化社会学、創造教育学。また、アーティスト、専門家と地域とのパートナーシップ作り、コンサルテーションにも尽力。『Cultural Mapping』など3冊の本を執筆するなど、芸術と文化の教育、プログラムの継続性について、多数の記事を執筆。バンコクUNESCO、韓国APCIEUにも専門家・アドバイザーとして参加。



ソウル国立大学教授

カン・ミュング Myungkoo Kang

ソウル国立大学教授、アジア・センター・ディレクター。メディア研究、カルチュラル・スタディーズ、メディア・テクノロジーの社会史について教鞭を執る。現在、「東アジアのクリエイティヴ・ジェネレーション」（中国、日本、韓国の研究者が共同参画）および「韓国企業の本国進出：韓国による投資の文化史」、ふたつのリサーチ・チームを主宰。近著に、『訓民と啓蒙：韓国における公共圏の歴史的形成』、『韓国における消費の文化史』（仮題、2016年刊行予定）など。



アクセス：

東京藝術大学 上野キャンパス
東京都台東区上野公園 12-8

お問い合わせ：

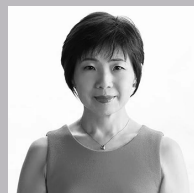
東京藝術大学国際芸術創造研究科
050-5525-2725(月・木 金 10:00 ~ 19:00)
ga-sympo@ml.geidai.ac.jp
http://ga.geidai.ac.jp



東京藝術大学大学院教授

熊倉純子 Sumiko Kumakura

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科長・教授。アートマネジメントの専門人材を育成し、「取手アートプロジェクト」（茨城県）、「アートアクセスあだちー音まち千住の緑」（東京都）など、地域型アートプロジェクトに学生たちと携わりながら、アートと市民社会の関係を模索し、文化政策を提案する。東京都芸術文化評議会文化都市政策部会委員、文化庁文化審議会文化政策部会委員などを歴任。監修書に『アートプロジェクトー芸術と共創する社会』、共著に『「地元」の文化力ー地域の未来のつくりかた』など。



東京藝術大学大学院教授

長谷川祐子 Yuko Hasegawa

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授。キュレーター／美術批評。金沢21世紀美術館学芸課長・芸術監督などを経て、東京都現代美術館チーフキュレーター。主な展覧会企画に、第7回イスタンブール・ビエンナーレ（2001年）、金沢21世紀美術館開館記念展「21世紀の出会い——共鳴、ここ・から」（2004～05年）、「SPACE FOR YOUR FUTURE アートとデザインの遺伝子を組み替える」展（2007～08年）、第11回シャルジャ・ビエンナーレ（2013年）など。著書に、『キュレーション 知と感性を揺さぶる力』など。



東京藝術大学大学院教授

毛利嘉孝 Yoshitaka Mori

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授。東京社会学者。文化／メディア研究。特にポピュラー音楽や現代美術、メディアなど現代文化と都市空間の編成や社会運動をテーマに批評活動を行う。主な著書に『文化＝政治 グローバリゼーション時代の空間叛乱』、『ストリートの思想 転換期としての1990年代』、『はじめてのDiY』、『増補 ポピュラー音楽と資本主義』、共著に『実践 カルチュラル・スタディーズ』、『現代思想入門 グローバル時代の「思想地図」はこうなっている!』、『ネグリ、日本と向き合う』など。



東京藝術大学大学院講師

箕口一美 Kazumi Minoguchi

1983年国際基督教大学教養学部人文科学科卒業。専門は音楽マネージメント。現在、サントリーホール プログラミング・ディレクター、上野学園大学音楽文化研究センター研究員。公演制作や海外からの招聘演奏家の日本ツアー制作を行う。クラシック音楽の普及プログラムに関心を持ち、アメリカの普及プログラムを研究、絵本と音楽の企画など、さまざまなアウトリーチ・プログラムを制作。地域創造主催「ステージラボ」、カザルスホール企画室「アウフタクト」、第一生命ホールオープニング・プロジェクト・プロデューサー、NPO「トリトン・アーツ・ネットワーク」ディレクターなどを歴任後、2006年より東京藝術大学大学院芸術環境創造分野講師として、演奏家のキャリア・マネージメント研究を進めている。訳書に、アンジェラ・M・ピーチング著「Beyond Talent 音楽家を成功に導く12章」など。



東京藝術大学准教授

廣江理枝 Rie Hiroe

桐朋学園大学ピアノ科、東京藝術大学大学院オルガン科修士課程修了。DAAD（ドイツ学術交流会）、アサヒビール文化財団より奨学金を得て、ドイツハノーファー音楽大学オルガン科ならびシュトゥットガルト音楽大学オルガン科へ留学。国家演奏家資格を取得し、ソリスト課程を卒業。オルガンを廣野嗣雄、U. プレムシュテラー、L. ローマンの各氏に師事。フランス・シャルトル大聖堂国際オルガンコンクール、デンマーク・オーデンセ、及び武蔵野市の両国際オルガンコンクールにて優勝のほか、ブルージュ古楽国際コンクールなど数多くの国際コンクールで入賞。シャルトルでの優勝以降、ヨーロッパ、アメリカ合衆国、日本の各地で多数の演奏会に出演。2006年以降は東京藝術大学にて後進の指導に携わりながら国内外で演奏活動を行う。また、近年多くの国際コンクールから審査員として招待されている。

GA

東京藝術大学大学院
国際芸術創造研究科
アートプロデュース専攻

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科
Tokyo University of the Arts, Graduate school of Global Arts,
Department of Arts Studies and Curatorial Practices